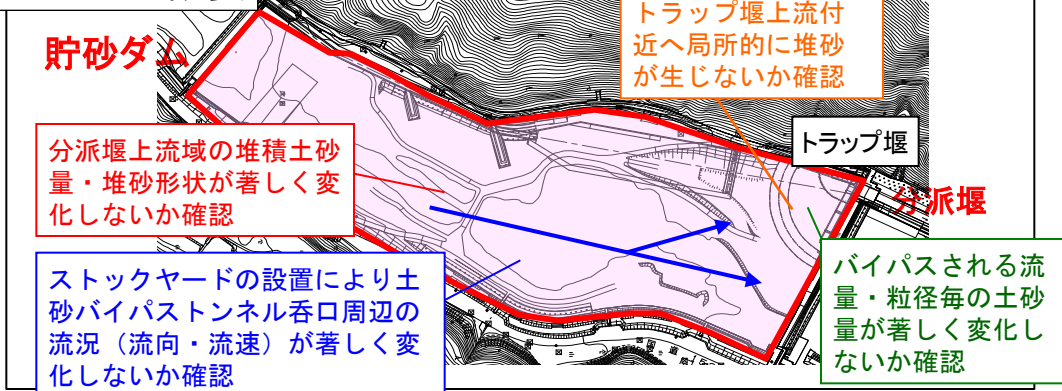


3. 実験計画

3.1 平面2次元河床変動解析(検討フロー①)

- ・ストックヤードの諸元・設計にあたり、ストックヤードを設置することで変化すると考えられる事象を平面2次元河床変動解析により確認する。
- ・平面2次元河床変動解析は、分派堰上流域を対象としてモデル化する。
- ・ストックヤードなし(現況)及びストックヤード有り(配置・基本寸法を変更した現時点案を含む3ケース程度)を対象とした河床変動解析により、分派堰上流域の流況(流向・流速)、河床変動状況(堆積土砂量、堆砂形状)の変化、バイパスされる流量、流入土砂量(粒径毎)の変化を把握し、トラップ堰の土砂補足機能、土砂バイパストンネルの排砂機能を損なわないストックヤードの配置・基本寸法を概略設定する。
- ・なお、概略設定結果をもとに模型実験を実施し、実験結果より必要に応じて微修正する。

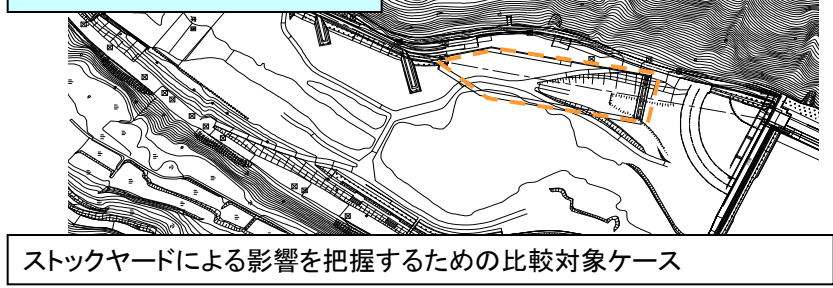
モデルの概要



構築モデル	平面二次元河床変動モデル
モデル化範囲	分派堰上流域(貯砂ダム～分派堰)
メッシュサイズ	10～20m
対象流量	3洪水 ・比較的湖内堆砂が生じた洪水(平成11年9月洪水) ・平均的な湖内堆砂が生じた洪水(平成15年8月洪水) ・大規模洪水(昭和57年8月洪水)※1
流 砂 量	掃流砂・浮遊砂・微細粒土砂 (粘着性土の侵食速度考慮)
構 造 物	・分派堰、トラップ堰、水制、ストックヤード (トラップ堰は河床高が天端高に達するまで掃流砂を捕捉することとする)
流入土砂量	一次元河床変動計算による貯砂ダムからの流入土砂量を粒径別に与える
下流端水位	分派堰の越流水深

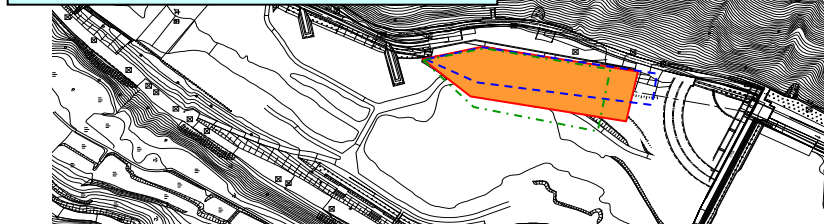
検討ケース

ストックヤードなし(現況)



ストックヤードによる影響を把握するための比較対象ケース

ストックヤード有り (形状を変えた3ケース程度)



- ・ストックヤードによる分派堰上流域の流況(流向・流速)、河床変動状況(堆積土砂量、堆砂形状)、バイパスされる流量・土砂量(粒径毎)の変化を把握
- ・土砂バイパストンネルの排砂機能を損なわないストックヤード形状を把握

※1. 設定した諸元での大規模出水時の影響の確認、ストックヤード設計外力の設定